



同窓会通信

創刊 第1号
2004.11.15 発行
島根県立大学同窓会事務局

Contents

◆巻頭言	1
◆同窓会会長あいさつ	2
◆会員の窓	2
◆大学の動き・お知らせ	2
◆平成16年度予算及び事業計画	5
◆同窓会役員氏名一覧	6
◆事務局から	6

巻頭言

学長 宇野 重昭

創設されてまだ一年に満たない島根県立大学同窓会が、ここに第一回の「会報」を発行するという。いよいよ同窓会がここまで積極的になったかと喜びに耐えない。企画した有志の人々の努力に心から敬意を表したい。

いうまでもなく同窓会というのは、すでに卒業して大学を去っていった人々のたんなる連絡の組織にとどまるものではない。永年の歴史を経た大学の場合、その卒業生の活動には目を見張るほどのものがある。私の経験した同窓会の場合にも、卒業生は大学の存在におおきな関心を持ち、母校の発展を願い、そしてその未来の発展のため、評議員として、さらには理事として大学行政に参画する得難い人々のコミュニティとなっている。また後輩の就職のために大きな力となっている。

とは言っても、以上のような言い方は、あまりにも大学中心の表現と言われるかも知れない。大学卒業生というものは、大部分、卒業するとすぐにきびしい競争社会のなかにほうり込まれる。そしてその先には新入社員の先輩として、さらに家庭人として、つぎつぎに新しい苦勞を積み上げていく。とても大学のことなど思いだす暇などないかも知れない。

しかしそれでも卒業生にとって同窓会とは、やはりまずなつかしい学友と会い、互いの社会経験の知識を交換し、おりおりの苦勞を慰めあう場であろう。互いの連絡をとりあい、大学の近況を知り、有志によって住所録を固めることは、まず大切なことである。もっともそれだけでは同窓会はそれ以上に活性化しない。

同窓会というのは、積極的に努力して発展させつづけるべき組織である。そのためには、まず同窓会の会報を発行し、会員や大学の近況報告とともに、その上に、それぞれの意見や社会観や教育論を公開し、新しい刺激を与え合うものが望ましい。私は島根県立大学の同窓会「会報」が、いずれ、全国にもユニークなものとして成長していくことを期待している。

同窓会会長あいさつ

会長 児島 正俊

秋冷の候、同窓会会員各位におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、宇野学長、島根県立大学同窓会事務局の皆さまをはじめとする多くの方々の賛助により、この同窓会会報の創刊ができましたことを心より感謝いたします。

さて、月日の流れは早いもので、三月に行われた第一期生の卒業式からはや半年が経ちました。大学時代とは全く違った土地や環境で奮闘されている卒業生の皆さまも、新しい生活に慣れ、夢に向かって猛進されていることと思います。

私は卒業後もここ石見地方で生活しておりますが、今年の石見は、全国の例にもれず夏から秋にかけて猛暑や台風に見舞われるなど、自然の脅威を感じる事が多く、私の住む町ではクマが連日出没する日々であります。

そのような中、先日10月16、17日に恒例の海遊祭が盛大に行われました。久しぶりに浜田に戻ってきた友人たちと学内を巡りながら、後輩たちの活躍を喜ぶとともに、私たち一期生が築き上げた伝統を誇りに感じました。このように感じる事ができたのも、大学四年間で得た友人や先生方とのつながり、後輩たちとのつながり、また地域とのつながりが強く、そして素晴らしいものであったからだと思えます。

島根県立大学同窓会は、このかけがえのないつながりを末永くつなぐものでありたいと思います。卒業された皆さまにとって第二の故郷とよべる同窓会となるよう、私自身精一杯努力してまいりたいと思います。何卒、皆さまにはあたたかいご支援をお願い申し上げます。

最後に、皆さまのますますのご発展、ご健康をお祈りいたします。



会員の窓

◆ 中谷 悠里 (浜田市)

早いもので卒業して4ヶ月が経とうとしています。現在私は、浜田市内にある浜田ガス(株)で毎日楽しく働いています。所属部署は営業開発部で主にショールームの説明、イベントでの商品説明、警報機の取り替え、お客様に配布する新聞の作成と様々な事をしています。上司や先輩に恵まれ、大変のびのびと仕事ができます。そんな中、時々つらい事があると大学で仲良くしていた友人達の事を思い出します。“きっと、みんなもつらい事を同じように経験しているんだ。私も頑張らなくては！！”と気持ちを切り替えて働いています。

◆ 景山 雄太 (広島県福山市)

卒業して早くも5ヶ月が過ぎました。私は、福山河川国道事務所で用地課に配属されました。日々、公共事業の用地取得に努めています。最近では、三原市のバイパス事業に関わらせていただいています。私が、この5ヶ月でやってきたことは、地権者の方と用地取得に向けて交渉することや、補償金の支払事務、契約が成立した土地の登記事務、相続人を確定するための事務など、短い間に様々な仕事を経験しました。日々、新しい知識が得られ、充実した社会人1年目を送っています。職場の上司も素晴らしい方々に恵まれ、楽しい環境の中で仕事をさせていただいています。これからも向上心を忘れず、1日1日を大切にしながら頑張っていこうと思います。

大学の動き・お知らせ

◆ 県立大学メールニュース「SUN」の創刊

平成16年4月に学内に設置されたPR・情報発信委員会では、全学の迅速な情報共有を目的としてメールニュースを9月から発刊(月2回程度+臨時増刊)しています。これまでは、メールの便利さが理解されるにつれ、次第に本学システム上に必ずしも必要でないと思われるようなメールが氾濫し、本当に必要な情報が埋もれてしまうような状況になっていました。その解消は本ニュース発行の狙いの一つでもありました。記事は大学当局から一方的に発信するのではなく、送信対象である学生、教職員からも募っています。

◆大学の法人化・統合問題について

現在島根県では、独立行政法人化選択の問題と、県立三大学統合検討の問題が平行して起こっています。法人化の問題は大学の自主自立性強化の問題が中心で、他方、統合の問題は、島根県として効率的運営の問題が中心です。両者は重なる部分もありますが、本質的には異なる問題です。まず法人化の問題は、本学では2年前から研究会、対策委員会と検討を重ね、今年4月からは大学将来構想検討懇談会と名称を拡大し、委員以外にもオープンした場として調査発表と討論を重ねてきました。この途中経過は、毎年教授会・評議会などで報告し、プリントでも明らかにしています。そして大学が最終的な法人化に踏み切るかどうかは、来年1月をメドに決定し、3月までには文書化することになっています。

これに対し三大学統合の問題は、まったく新しい問題で、まだ正式な学内討論はしたことがなく、設置者と大学との話し合いでも一般的な情報交換にとどまっています。したがって今回の島根県総務部の三大学統合案を含む大学改革の検討案は、私としては問題提起と考えています。ただし本学が県立大学である以上、重い問題提起です。

現在日本や韓国などで法人化や大学統合が急速に進められていることは事実です。そして島根県は、決して突出しているわけではなく、先行的モデルを参照しながら、先頭グループに続いて動き出すことを検討している段階です。経済的には後発で、少子高齢化に悩む島根県では、人間の育成こそ、重要な価値目標です。島根県が時代に遅れないように努力していることは理解できると思います。今後は、法人化や統合によって得るものと失うものとを、しっかり比較し、前向きに考えていきたいと思います。そこで、新しい事態である統合の問題を中心に、若干法人化の問題にもふれながら、説明しておきたいと思います。まず大学統合への動きが急速に進んでいる現実を押さえておきましょう。すでに東京都、大阪府、兵庫県などでは平成17年度に複数の大学が再編・統合することが決定され、そして隣の広島でも、これに続くことが発表されています。全国の公立大学でも、すでに4分の1の大学が、法人化と並んで再編・統合の方針を打ち出しており、今年はまだ現象で、認証評価申請がはじまるのが予想されています。いまや統合による効率化と大学の魅力再発掘の動きは、大学の構造的改革として、とどめることのできない時代の要請となっています。もちろん、大学の構造改革の重要性は、大学内部において

も自覚されていました。そして、どのようにして研究の水準を国際的レベルに高めるか、どのようにして教育のシステムを効率化し、真に教育重視の大学をつくるか、どのようにして大学に対する社会の要請に的確にこたえていくか、などの問題点が検討されています。これらの点に関し、本学でも、地域に生きる大学としてできるかぎりの努力をしてきたつもりです。しかし、それでも、本学を含め、相当数の大学が時代の変化と要請に追いつかなかったといわざるを得ません。今では、大学それ自身の存在理由が変わりつつありますし、受験生の大幅な減少の見通しが統計調査で示され、他方、いわゆる三位一体改革の圧力の下での地方自治体財政の逼迫は、人々の予測を超えています。今回設置者がラディカルともいえる県立大学統合の検討案を示したのは、あらためて教育環境の激変に着目し直し、時代に立ち向かうとする意思の表明ともいえます。もちろん大学教育の中身というものはペーパーの上だけで一朝一夕に変えることのできるようなものではありません。また結果以前に、決定の民主的なプロセスが重要です。大学の構成員自身が、積極的にその改革と取り組み、その決定過程に参加しないかぎり、生きた教育改革を実現することはできません。今後、大学統合の共通する建学精神あるいは教育方針をどうするのか、大学が生き残るための個性をどのように教育課程に実現するのか、地域貢献のそれぞれのパターンをどのように再構成し連携するのか、三大学の地理的距離をどのように克服するのか、等々、検討すべき問題は数多く存在します。中身をどうするかは、まさにこれからの問題です。設置者の目指す実現目標は平成19年4月です。それは大学にとって厳しい試練ともいえます。私たちは、教職員も学生も、そして地域で大学を支援している人々も機会を捉えて実質的問題を討議していきたいと思います。従来も大学・地域代表・学生代表の大学教育のための懇談会も試みられました。しかしまだまだ不十分です。重要な問題提起が行われた現在、思い切ってそのような会合を増やしていきたいと思います。そしてもろもろの主張や希望を積極的に受け止め、時代や社会の要請の内容や切迫感を分析し、今回の設置者の「改革検討」にこたえていくことが学長（および大学のリーダーシップに参画する人々）の任務と考えています。大学の最終的な態度決定はこれからです。ともどもに21世紀の新しい公立大学のありかたと任務を追求していきたいと思います。

（平成16年9月30日号「島根県立大学メールニュース」から引用し掲載）

◆第5回「海遊祭」、第1回「運動会」開催

10月16、17日の両日、第5回海遊祭が開催されました。今回は、「友近」さんら3組のゲストを迎えた爆笑お笑いライブのメイン企画に加え、「暮らし発のまちづくり」シンポジウムや「日本海・東海名称問題を考える」、英語で「移民問題を考える」といったディベートも企画されました。各種の展示にも工夫を凝らしたものが多く見られ、年を追うごとに内容も充実してきたように感じられました。30店余りの模擬店も、お客さんの行列があらこちらに見られました。好天にも恵まれ、両日とも多くの来場者でにぎわいました。卒業生の皆さんの姿も見られ、ミニ同窓会という雰囲気も感じられました。

また、10月30日に、4年生の有志が発起人となり実行委員会形式で準備が進められてきた、県大で初の「運動会」が開催されました。種目もラジオ体操に始まり、「ムカデ成長リレー」、「綱引き」、「騎馬戦」、「フォークダンス」などユニークでなつかしい20数種目が企画され、多くの学生が参加し楽しんでいました。来年も引き続き実施したいということなので、キャンパスライフの充実につながっていくものと期待されます。

◆「大学新聞」の創刊にあたり学生の編集委員を募集

大学では、学内での情報共有を進めるため、12月を目途に大学新聞を創刊することになりました。

編集委員会は、教員、学生、事務職員で構成することとなり、新聞作りに携わる編集委員（学生）を募集することとされ、今後、新聞は春・秋各学期中に2回ずつ年間4回の発刊を予定しており、学生委員には、発刊日の前約1ヶ月にわたり、企画・取材・編集等の作業をしてもらうことになっています。

変化が求められる時代にあって本学の学生・教職員が必要な情報を共有し、前向きな議論をかわす場をつくるということとても大事な役割を担うことになります。

また、学生の参画には、ものを見る目を養う、論理立てて思考する、文章で表現する等多様なスキルアップが可能になるのではという期待が込められています。

新任教員の紹介

わん てうん
王 泰雄 教授

担当科目：「韓国語Ⅰ～Ⅵ、異文化理解」

研究テーマ：韓国文化と日本文化との比較、日本近代文学、韓日比較文学

えしま よしひろ
江島 由裕 助教授

担当科目：地域経済政策論、中小企業論（ベンチャービジネス概論）、地域産業政策論、地場産業・産地

研究テーマ：革新的中小企業・ベンチャー企業支援政策、アントレプレナーシップ（企業家能力）、地域産業政策、パブリックマネジメント

おの ようこ
小野 陽子 講師

担当科目：コンピュータ・リテラシー、データベース論、情報理論の基礎、経営科学

研究テーマ：計算機統計学、抽象代数命題証明システムの構築



平成16年度予算及び事業計画

◆収入

(単位：円)

科 目		予算額	前年度 予算額	増減	備 考
項	目				
会費		950,000	950,000	0	⑤5,000円×190人(卒業生見込み:H15を参考)
繰越金		517,400	0	517,400	
寄付金		80,000	0	80,000	平成15年度卒業記念パーティ残金・寄付金
雑入		0	0	0	
合 計		1,547,400	950,000	597,400	

◆支出

科 目		予算額	前年度 予算額	増減	備 考
項	目				
事業費		50,000	0	50,000	印刷費
	講演会等	0	0	0	
	福利厚生	0	0	0	
	会報作成 会員名簿	50,000 0	0 0	50,000 0	
総会費					
役員会費		150,000	0	150,000	
	理事会費 幹事会費	150,000 0	0 0	150,000 0	
事務費		50,000	50,000	0	通信費・消耗品費
予備費		300,000	900,000	-600,000	
繰越金		997,400	0	997,400	
合 計		1,547,400	950,000	597,400	

平成16年度の事業は、会報の発行、卒業式等への会長の出席を計画しています。

同窓会役員氏名一覧

■ 会長	兒島 正俊	■ 幹事	越中谷 育未
■ 副会長	新谷 翼		沖津 孝明
■ 理事	岩田 江身子		久保 彩佳
	佐々木 眞生		古賀 直樹
	下手 麻子		谷口 正樹
	白根 慎介		藤々木 正幸
	錦織 悠佑		中塔 千鶴
	村上 栄太郎		秦 幸代
			山村 涼
		■ 監事	鈴木 琢也
			中谷 悠里

事務局から

今後も、年に1回程度会報を発行する予定です。また、学内では既に発刊している「メールニュース」に加え、「大学新聞」の創刊も予定しています。卒業生の皆さんからの在学生へのメッセージなどは随時そちらへ掲載するなども考えていますので、近況などをお知らせ頂きますようお願いいたします。

現住所等の変更などがありましたら、お手数ですが事務局までお知らせください。

会費納入のお願い

島根県立大学同窓会は、平成16年3月19日に設立され、終身会費5,000円で運営されています。

既に多くの方々に、納付いただいておりますが、まだ納付いただけていない方は、下記により納付いただきますようお願いいたします。

納付方法① 銀行振込

山陰合同銀行 浜田支店（支店コード043）

口座番号 普通 3607995

口座名義 島根県立大学同窓会 会長 兒島^{こじま} 正俊^{まさとし}

住 所 島根県浜田市野原町 2433-2

納付方法② 小為替の送付（到着後、領収証を発行します）

郵便局で、5,000円分の「普通為替証書」を購入していただき、大学事務局まで郵送していただく。（受取人指定欄、受取人欄には何も記入しないでください。）

島根県立大学同窓会事務局

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
TEL (0855) 24-2202、FAX (0855) 23-7352
E-mail gakusei@u-shimane.ac.jp